集英社　世界文学大事典　1　（1996年10月25日、 東京　集英社）

[p. 153]

『**アルトゥン・ヤルク**』Altun yaruk
中世ウイグル・トルコ語仏教文学で翻訳作品。ビシュバリク（現中国新疆省ウルムチ付近）生まれのシンコ・シェリ Šingko Šäli（10ー11世紀頃）が漢訳経典『金光明最勝王経』（義浄訳）から重訳した。題名は〈黄金の光〉の意で経名の略記。西ウイグル国では仏典のトルコ語訳が盛んに行われた。玄奘三蔵の伝記『慈恩伝』も同一人の訳本がある。13世紀にかけてタリム・トゥルファン盆地にウイグル人の手でシルクロード仏教の最後の華が開いた。　（小田壽典）

[p. 882]

『クタドグ・ビリグ』Kutadgu Bilig
中世イスラーム・トルコ詩文学の作品。1069年（イスラーム暦462年）にカシュガル（現中国新疆省喀什）のカラ・ハーン朝君主アブー・アリー・アル・ハサンのために，ベラサグン（現キルギスタン共和国フルンゼ付近）生まれの侍従ユースフ Yūsuf Khaṣṣ Ḥājib が書いた。題名は〈幸福が得られる知識〉というほどの意で，現世と来世の両世界の幸福はいかにして手に入るか，という教訓文学である。文学形態はメスネヴィー詩で約6500対句からなる。思想的背景や教訓的内容にイラン文化の影響を否定し得ないが，巧みなトルコ文語と豊かな語彙によって百科全書的知識を提供する。言語表現は象徴的，格言的であり，正義（法），幸福，知恵（理性）を擬人化した人物の対話によるドラマ構成になっている。ある城市の国王，キュン・トウディ（日生まれたりの意）は太陽の輝くように万人を育成し，不滅の君主として正義の法を象徴する。宰相の名はアイ・トルディ（月満ちたりの意）といい，幸福の擬人化された人物である。彼に国事を任せて国は繁栄の極に至るが，宰相は突然死の病床につく。月は満ちて欠けるように世間の幸福ははかなく，息子のオグドゥルミシュ（称賛された者）が宰相職を継ぐ。彼は知恵の化身として国王に世事の要諦を説く。また王はその兄弟でオドグルミシュ（覚悟した者）という隠棲者がいるのを知り招いて謁見する。彼は終末の象徴として礼拝と禁欲に従い神に仕える。国王へも現世の無常を説き来世への準備を進言する。王および宰相と隠棲者のダイアローグにイスラームと信仰とが論議されている。　（小田壽典）